

大学基準協会による認証評価を受けて

平成21年4月

相愛大学 学長 高橋 乗宣

本学は平成19年度に全学をあげて自己点検・評価に取り組み、その報告書を平成20年度に大学基準協会へ提出して同協会による認証評価を受けました。そして平成21年3月に、同協会の「大学基準に適合しているか否かの判定を保留する」との通告をいただきました。

教学の面に関しては全項目について基準を満たしているとの評価でしたが、「学生の受け入れに関して」不十分であり、そのために「教育・研究を行う上で必要な財政基盤が安定性を欠く」とされ、この課題に対して「抜本的な改革を行って改善を図ることが期待」されることのご指摘をいただきました。

実は本学といたしましても、この問題をかねてより重大視し、順次、改革を進めてきたところであります。今回のご指摘は尤もなものと受け止めて、改革をいちだんとスピードアップすべく、全教職員が一丸となって取り組みを進めているところです。

全学的視点に立った改革を進めるために、平成20年4月に「全学将来構想委員会」をスタートさせ、21世紀の世界が求める人材を育成するための学部・学科編成の在り方について鋭意、協議を重ねてまいりました。従来は「優れた演奏家」の育成に特化していた音楽学部、「よき音楽文化人」の育成をめざす新学科を開設し、人間発達学部「人間学」を基軸とする新学科を開設すべく検討中です。また人文学部は、日本内外の「文化論」に特化するなど、本学の伝統的なコンセプトであります「音楽・文化・人間」を軸としつつ、より現代的な領域にまで研究・教育を展開するための構想図面が仕上がりつつあります。

また、人件費の縮減につきましても、すでに3年前から新しい給与体系への段階的移行を始めるなど、労使をあげて事態の改善に努めているところです。学校法人としての財務につきましても、併設の中学校・高等学校の生徒減少が影響しておりますので、ここでも、少子化時代に対応できる中等教育の体制作りに尽力しているところです。

大学基準協会による認証評価の保留期限は3年間とされておりますが、3年を待たずに、伝統に根ざしつつも新しい時代に飛翔する相愛大学を実現する決意でありますので、どうぞ引き続きご注目いただきますように念じあげます。

以上